

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2020 年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2021 年 月 日 提出

1. 研究課題名	
服装・身装文化デジタルアーカイブの国際化:バーチャル・インスティテュートの活用を前提として (英文 課 題 名 : Internationalization of the Clothing Culture Digital Archive by Using the Virtual Institute)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Haruko, TAKAHASHI	National Museum of Ethnology・Visiting researcher
3. 研究分担者 (合計: 3 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Kozaburo, HACHIMURA	Ritsumeikan University・Professor emeritus
Keiko, SUZUKI	The Kinugasa Research Organization ・Professor
Mitsuhiro, TUDA	iPallet ・ Representative
4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>本研究は、MCDプロジェクト作成のデジタルアーカイブを、ARCのバーチャル・インスティテュート機能を用いて提供するものである。バーチャル・インスティテュート『服装・身装文化デジタルアーカイブ』は、1) 衣服・アクセサリ標本データベース、2)身装画像データベース(近代日本の身装文化)、3) 近代日本の身装電子年表、4) 身装文献データベースの4本から成り、国立民族学博物館のデータベースと連動している。</p> <p>今後の優先課題としては、これら4本のデータベースのうち、とくに外国からの需要の高い、1) 衣服・アクセサリ標本データベース、2)身装画像データベース(近代日本の身装文化)の英語化を実践し、ヴァーチャル・インスティテュート『服装・身装文化デジタルアーカイブ』を充実させることである。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>今年度の研究成果は次のとおりである。身装画像データベース(近代日本の身装文化)の挿絵の説明文、ならびにメタデータに含まれるフリーキーワードの英語化を試みた。全体で約6000件の画像データについて、今年度予定した500件の英語化は達成した。今後は、プロトタイプを作成し、システムならびにレイアウト等の検討をすすめ、本データベースの英語版を試験的に公開したい。</p>	

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

「アートシーンを支える：〈服装・身装文化デジタルアーカイブ〉の現在と今後の課題」、共著、2020年12月、勉誠出版、高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集、担当頁:177～200

(2) 論文

(3) 研究発表等

「身装画像データベース「近代日本の身装文化」の国際化にむけて」、2020年3月、2020年度身装文化デジタルアーカイブ研究会、大阪府 国立民族学博物館、鈴木桂子・津田光弘・八村広三郎、査読無

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

・服装・身装文化デジタルアーカイブ、研究成果公開促進(データベース)、2020年4月～2021年3月、代表

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他